

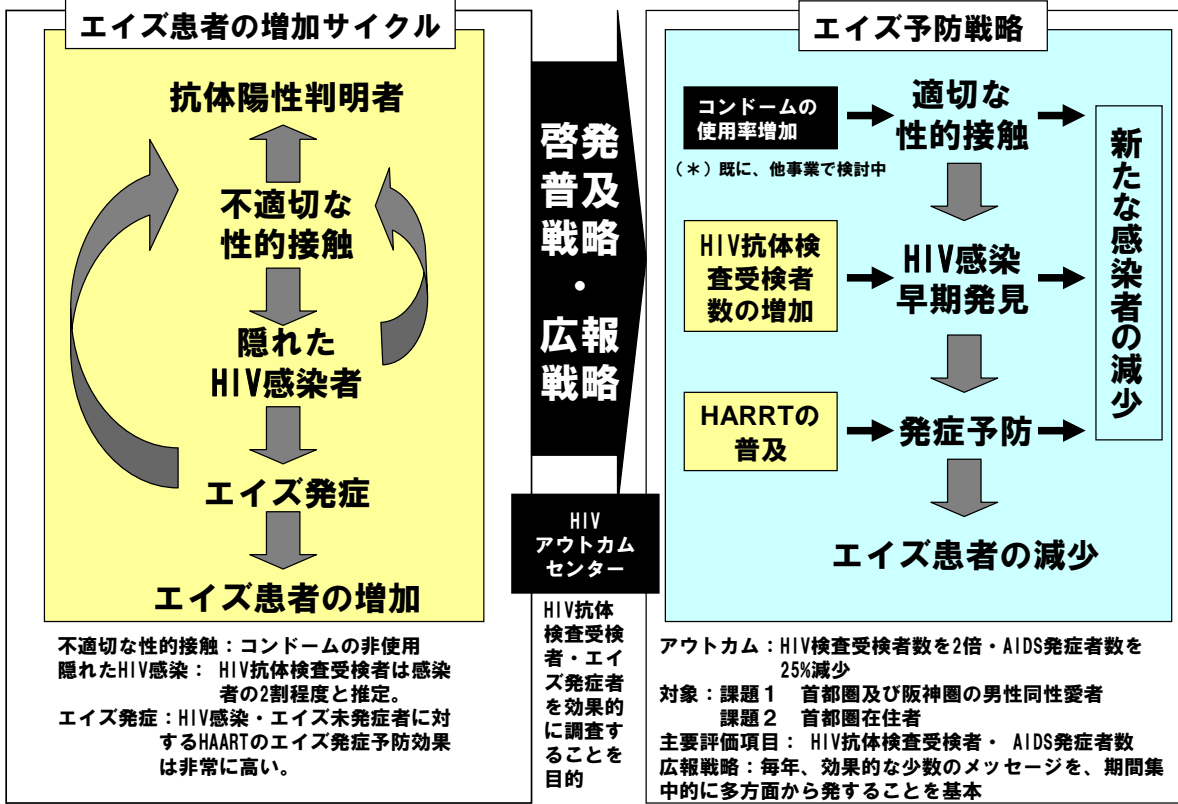
#### 4) エイズ予防のための戦略研究

##### ○ 研究内容

	課題 1	課題 2
研究課題名	男性同性愛者を対象とした HIV 新規感染者及び AIDS 発症者を減少させるための効果的な啓発普及戦略の開発	都市在住者を対象とした HIV 新規感染者及び AIDS 発症者を減少させるための効果的な広報戦略の開発
アウトカム	HIV 抗体検査受検者数を 2 倍に増加させ、AIDS 発症者数を 25%減少させる。	HIV 抗体検査受検者を 2 倍に増加させ、AIDS 発症者数を 25%減少させる。
研究方法 〔対象 (属性、数、抽出・登録・割付等)、 介入方法、 精度管理、 収集データ (項目、時期、頻度) 分析方法、 その他〕	<p>阪神圏で行動する男性同性愛者（以下、MSM と略す）を対象に、1 年に 1 度集中的（2-3 ヶ月程度）に啓発普及活動を行い、かつ、阪神圏では希望者に対し在宅（郵送）HIV 抗体検査を実施する。活動後 1 年間の医療機関・保健所で HIV 抗体検査を受けた者および在宅 HIV 抗体検査を実施した者の数と、HIV 感染者および AIDS 発症者の数を月ごとに測定。啓発普及活動は、4 年間毎年実施し、HIV 抗体検査受検者数と AIDS 発症者数を毎年経時的に測定することによりその持続効果、蓄積効果を検証する。同時に、以下の調査を行う。</p> <p>①HIV 抗体検査を実施した者に対してアンケート調査を行い、行動変容に対する効果とその要因を検証。</p> <p>②在宅 HIV 抗体検査受検者の意識調査を実施し、在宅 HIV 抗体検査の有効性と危険性を検証。</p> <p>③首都圏と阪神圏の推移の比較及び両地区内の経年推移の比較により在宅 HIV 抗体検査の効果を検証。</p>	<p>東京都 23 区在住者を対象に、1 年に 1 度集中的（2-3 ヶ月程度）に広報キャンペーンを行い、活動後 1 年間の医療機関および保健所で HIV 抗体検査を受けた者、在宅 HIV 抗体検査を実施した者の数と HIV 感染者および AIDS 発症者の数を月ごとに測定。広報活動は、4 年間毎年実施し、HIV 抗体検査受検者数を毎年経時的に測定することにより、広報キャンペーンの持続効果、蓄積効果を検証する。同時に、在宅 HIV 抗体検査受検者の意識調査を実施し、在宅 HIV 抗体検査の有効性と危険性を検証する。広報キャンペーンは、毎年、効果的な 2-3 のメッセージを、期間集中的（2-3 ヶ月程度）に、多方面から発することを基本とする。</p>
その他 必要事項	MSM を対象とした啓発普及戦略の策定、MSM を対象とした HIV 感染者およびエイズ感染者の治療のための医療ネットワークの構築、首都圏の HIV 抗体検査受検者を効果的に調査するための HIV アウトカムセンターの構築、予算規模	東京都 23 区在住者を対象とした広報戦略の策定、東京都 23 区在住者を対象とした HIV 感染者およびエイズ発症者の治療のための医療ネットワークの構築、首都圏の HIV 抗体検査受検者を効果的に調査するための HIV アウトカムセンターの構築、予算規模

○ 研究概要

平成18年度 エイズ予防のための戦略研究の概要



平成19年度

5) 感覚器戦略研究

○ 研究内容

	課題 1	課題 2
研究課題名	聴覚障害児の療育等により言語能力等の発達を確保する手法の研究	視覚障害の発生と重症化を予防する手法に関する介入研究
アウトカム	聴覚障害児の言語能力等の向上	視覚障害の発生と重症化の減少
研究方法	<p>1 聴覚障害児（0～15歳）を対象とし、言語発達、適応度、療育の状況、聴覚障害を発見された時期や状況、人工内耳の有無等を把握することにより、相互の関係や現状を調べる。</p> <p>2 続いてこの解析結果により、具体的な介入すべき項目を検討する。例えば、新生児聴覚スクリーニングあるいは療育におけるリハビリテーションプログラムの開発などを行い、これにより介入研究計画を策定し、実施する。</p>	<p>1 地域住民を対象として、眼科的情報・眼科以外の医学情報・受診状況と治療内容・生活状況と生活習慣などを集積して、それらが眼疾患の発生と重症化に及ぼす影響を解明し、それらを予防するうえで有効と思われる介入手法を検討する。そのため、すでに過去に眼科的状況について調査した地域において実施する。</p> <p>2 続いて眼科的状況（視力・視野・眼圧・眼底所見など）の重症化予防を主要評価項目として介入研究を行う。その際は、眼科以外の医学的状態（血圧など）や生活習慣（禁煙など）に対する介入、眼科治療コンプライアンスの改善、かかりつけ医との連携強化といったことを主な介入手段とする。</p>
その他 必要事項	わが国の状況を代表する調査となるよう、調査対象に施設の種類や地域分布等の偏りが無いよう十分に配慮することが必要である。	眼科的状況および眼科的以外の身体的状況を十分に把握できる体制が必要である。

## ○研究概要

### 平成19年度 感覚器障害戦略研究の概要

#### 聴覚障害

状況：

- ・聴覚障害児の一部に言語発達の遅れがみられる。この場合、学習に困難を生じるなど、児の十全な能力の発揮が妨げられるおそれがある。
- ・言語発達は、療育の開始時期や内容、障害の発見時期、人工内耳の実施時期、その他の要因について関連が指摘されているが、十分に解明されていない。

課題1 聴覚障害児の療育等により言語能力等の発達を確保する手法の研究

研究：

- ・聴覚障害児(0～15歳)の言語発達を評価
- ・併せて保健・医療・福祉・教育その他の状況を把握し言語発達との関連を分析
- ・分析で明らかになった介入項目により介入研究を実施

聴覚障害児の言語能力等の向上

#### 視覚障害

状況：

- ・高齢化の進展等に伴い、視覚障害をきたす眼科疾患が増加。
- ・一方、視覚障害の発生と重症化を予防する手法については、喫煙や食生活などについて発症に関連が指摘されているものの、十分に解明されていない。

課題2 視覚障害の発生と重症化を予防する手法に関する介入研究

研究：

- ・地域住民の眼科的状況を評価
- ・併せて眼科以外の医学情報、生活習慣、受診動向等を集積し、眼科的状況との関連を分析(すでに過去に眼科的状況について調査した地域において実施)
- ・分析で明らかとなった介入項目により介入研究を実施

視覚障害の発生と重症化の減少

感覚器障害の克服、発生と重症化の減少

## 6) 腎疾患戦略研究

### ○研究内容

研究課題名	かかりつけ医／非腎臓専門医と腎臓専門医の協力を促進する慢性腎臓病患者の重症化予防の為の診療システムの有用性を検討する研究
アウトカム	5年後の透析導入患者を予測される導入患者数から15%減少させる。
研究方法 〔対象 (属性、数、 抽出・登録・割 付等)、 介入方法、 精度管理、 収集データ (項目、時期、 頻度) 分析方法、 その他〕	<p>かかりつけ医あるいは非腎臓専門医に通院中の慢性腎臓病患者(尿蛋白陽性もしくはGFR60ml/min以下)を対象に、調査研究を行う。地区基幹病院あるいは地区医師会を中心とした「かかりつけ医／非腎臓専門医と腎臓病専門医間の診療連携ネットワーク」を募集し、「慢性腎疾患診療支援システム群(介入群)」と「通常診療連携群(対照群)」の2群に割り付けるクラスターランダム化比較試験を実施して、その効果を比較する。</p> <p>全ての参加患者とかかりつけ医には、「慢性腎疾患診療指針」を明示し、その遵守率と達成度を作成する。この指針には、受診頻度・食事内容・血圧測定・尿蛋白測定・腎機能測定などの項目とその目標値を含む診療・患者管理目標を予め設定する。</p> <p>その上で、「慢性腎疾患診療支援システム群(介入群)」では、かかりつけ医／非腎臓専門医と腎臓病専門医間での「患者情報の共有化」と「診療の役割分担協力」、かかりつけ医への「栄養療法支援」「受診状況調査を介する受診促進支援」、などの機能を含むシステムを構築し、利用する。</p>
その他 必要事項	「慢性腎疾患診療支援システム群(介入群)」のシステムの具体的内容、診療連携ネットワークに参加するかかりつけ医／非腎臓専門医・腎臓病専門医の数とネットワークの運営方法、対象となる患者数

### ○ 研究内容イメージ

